



益城弁丸出しの楽しいおしゃべりの花が咲く「五楽のキャンディーズ」。左前は荒野さん、右は花田さん、後ろ中央は森本さん

## みんなで寄れば大笑い 五楽のキャンディーズ

どんどやの豪快な火が落ち着くと、参加者が持ち寄った鏡餅やサツマイモを残り火で焼いて楽しみます。この頃になると女性陣の出番。「どんどやで焼いた餅は食べる」と、一年中風邪ばかりかかっているといね」と話すのは森本嘉子さんです。隣で、「1年のうち、363日はグラウンドゴルフを楽しむ」と胸を張る荒野君江さんや、花田敬子さんがおしゃべりに花を咲かせます。皆さんは昭和11年生まれの同い年。お三方のおしゃべりは解説付きで紹介いたします。森本「いごつきるうちはいごかやんな(体が動けるうちは積極的に行動しましょうね)」

荒野「あしやかなわんぱつてん、くちやかなうたい(足はちよつとだけ不自由だけど、おしゃべりならまかせて)」  
花田「ぎゃんして、そうよとあわにゃんでけんな(こうして、仲良しのみんなど会う機会は大切よね)」  
3人寄ればいつも、がはは、うひゃひゃ、ぶははと笑いが湧き起こるのだとか。名付けて「五楽のキャンディーズ」。どんどやの残り火で温まりながら、話のネタは尽きることなくいつまでも…。

## 五楽は 人よし、水よし、 婿がよし(婿養子)

どんどやの集まりで誰かが「五楽は人よし、水よし、婿がよし(婿養子)」と口にしました。ここでは古くから、親戚同士のような地域のつながりや、赤井地区から流れる湧水の恩恵を受けた暮らしが育まれてきました。  
では、3つ目の「婿がよし(婿養子)」ですが、不思議なことに昔から五楽地区は、婿養子の縁組み率が他の地域に比べると驚異的に高いのだそうです。現在も31世帯の中で5組ほどおられ、婿養子ではないけれど妻の家族と同居する



ひ孫たちに囲まれて幸せな森本さん。左は樹君、右は篤君

サザエさんの夫のマスオさんスタイルは2軒あるそうです。  
今年で92歳になる森本ケイ子さんも、18年前に75歳で亡くなった悦郎さんを婿養子に迎えました。「実は同居している孫娘の夫も婿養子なんです」と教えてもらってびっくり。  
そんな森本家は4世代が同居する大家族。森本さんはやんちゃ盛りのお男子3人と女の子のひ孫4人の世話に大忙しで、今年には新たに5人目のひ孫も誕生します。「朝からひ孫たちを小学校や保育園に送り出す時間はてんやわんやですわい。ばつてん、かわいくてね」と森本さんの目尻は下がりっぱなし。  
台所仕事も現役バリバリの森本さんは、家族の食事を一手に引き受けています。ひ孫たちはみんな



台所仕事も元気にこなす森本さん



自宅敷地内にたくさんの野菜を育てています



おいしいと評判の森本さん手作りの漬物

「ばあちゃんが作るのっぺ汁が大好物」と口をそろえます。「友だちから『一緒にデイサービスに行こう』と誘われるばつてん、一日はあつという間に過ぎて、時間が足らんとです」と笑う森本さん。台所や畑を歩き来する足取りも軽く、実年齢より10歳以上も若く見えるそのはつらつぶりは、家族を支える思いがなせる力に違いありません。